

令和 4 年 6 月 22 日現在

機関番号：13801

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K12475

研究課題名(和文) 日本におけるベトナム人介護留学生急増の背景と受入の持続可能性に関する人類学的研究

研究課題名(英文) An Anthropological Study Contextualising the Rapid Increase of Vietnamese Care Worker Students in Japan and the Sustainability of Accepting Them

研究代表者

比留間 洋一 (Hiruma, Yoichi)

静岡大学・国際連携推進機構・特任准教授

研究者番号：30388219

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：主な研究成果は2019年度の研究会を踏まえ、2020年度と2021年度にそれぞれ約20名のベトナム人介護留学生を対象に、アクションリサーチ「母語(ベトナム語)による国家試験対策の補講」(各年16回ずつ)を実施し、国家試験合格率が低迷している背景の解明と、その解決策として次の3点の示唆を得たことである。

母語による補講は、特に日本語能力の不十分な学習者(N3程度)の読解力と知識力の向上に有効。グループ学習と、国家試験直前まで指導者が伴走することが、学習意欲の維持に有効。問題文の正確な理解において漢越語(ベトナム語の中に豊富に含まれる中国語由来語)の利用が有効。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義は、先行研究では外国人介護留学生にとって国家試験に必要な日本語力として、「漢字」、「漢字語彙」、「読解力」が挙げられていたが、本研究により、母語を用いた学習支援が特に日本語能力が十分ではない学習者の読解力の向上に一定の効果があること、また、国家試験の漢字、漢字語彙を正しく理解する上で、漢越語をつまく利用することが有効であることを具体的実証的に明らかにしたことである。

社会的意義は、ベトナム人介護人材には、留学生のみならず、介護技能実習生、特定技能「介護」労働者の中にも国家試験合格を目指す者が多く、彼ら/彼女たちに対する効果的効率的な国家試験対策のモデルを提示したことである。

研究成果の概要(英文)：This study conducted action research on the delivery of 'supplementary lectures for the national examination in the native language (Vietnamese)' (16 times per year) for approximately 20 Vietnamese care worker students in 2020 and 2021. The context of Vietnamese students' low pass rate on the national examination was clarified, and the following three implications emerged for solving the problem:

(1) Supplementary lectures in the native language can effectively improve reading comprehension and knowledge acquisition, especially for learners with insufficient Japanese language skills(N3 level).  
 (2) The group learning and the presence of a mentor (a Vietnamese national) until just before the national examination can support students in maintaining their motivation to learn.  
 (3) The use of Sino-Vietnamese words (words derived from the Chinese language, which are abundant in the Vietnamese language) can improve students' comprehension of the questions on the national examination.

研究分野：ベトナム地域研究 文化人類学

キーワード：外国人介護人材 ベトナム人介護留学生 国際移動 介護福祉士国家試験 漢越語 アクションリサーチ

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

日本政府は介護分野で外国人労働者の受け入れ拡大を目指している。とりわけ急増しているベトナム人介護人材受入の持続可能性は今後を占う試金石である。2017 年度に初めて国家試験を受験した EPA (経済連携協定) に基づくベトナム人介護福祉士候補者の合格率は 93.7% と、インドネシア、フィリピン (約 38%) を大幅に上回った。2018 年 4 月に介護福祉士養成施設に入学した外国人留学生は 1142 人で、うちベトナムが 542 人と最多であった。しかしながら介護留学生の国家試験合格率は低迷している (約 30~40%)。かような EPA と留学生との合格率の差の背景に何があるのか? どのような解決策がありうるのか? これが主たる問いである。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、EPA と留学生の国家試験合格率の差の主な背景として、日本語能力、モチベーション、漢越語を利用した読解力、という 3 点があるという仮説を検証すること、またその解決策への視点を明らかにすることである。

### 3. 研究の方法

#### (1) 研究会の開催(2019 年度)

ベトナム人元介護留学生、介護留学生送り出しに関わっているベトナム人看護教員、介護留学生受入れに関わっている日本人関係者を招いた研究会を複数回開催。

#### (2) アクションリサーチの実施 (2020 年度、2021 年度)

上記 (1) の研究会等で得られた知見を踏まえ、A 専門学校 (調査協力校) のベトナム人留学生 (2 年生) を対象に、日本語能力の不足を補い、モチベーション向上を図ることをねらいとして、「母語 (ベトナム語) による国家試験対策の補講」(以下、「母語による補講」) をアクションリサーチとして実施した (表 1)。2020 年度の試行 (計 16 回) を踏まえて改善した 2021 年度には、ベトナム人看護教員 (Z 医療短大) で日本の介護施設での就労経験もある B 氏を講師として、オンライン形式で「母語による補講」(2021 年 8 月~2021 年 12 月、計 16 回) 及び「フォローアップ」(補講 16 回終了後に希望者を対象に実施した学習支援) を行った。参加者の背景情報、勉強会時の観察データを収集した他、参加者 15 名にアンケート調査を依頼し 7 名から回答を得た (表 2)。

### 4. 研究成果

主な研究成果は上記のアクションリサーチを通して、ベトナム人介護留学生の課題とその解決策への視点について具体的実証的に明らかにしたことである。

2020 年度の A 専門学校の留学生における国家試験合格率 (新卒者の受験者 30 人以上) は 10% 前後であった。が、2021 年度の国家試験合格率は 2020 年度より向上した。学校全体 (留学生受験者) では 22% で、特にアンケート回答者では 7 名中 3 名が合格した。収集したデータ (cf. 表 3) の解釈について共同研究者間で検討した結果、主に次の 4 つの示唆が得られた。

(1) 国家試験合格率の向上に対する効果について、先述の通り「母語による補講」に一定の効果があった。ただし、読解力向上を目的とした「問題文のベトナム語への逐語訳」は、N3 レベル以下の学習者には一定の効果が見られたが、N2 レベルの学習者からは費用対効果が乏しいと評価が低かった。他方、専門知識の習得を目的とした「ベトナム語での用語解説」は、N2 レベルの学習者の中にも高く評価する者がいた (参加者の中に N1 の学習者はいなかったため、N1 の学習者への効果は未詳である)。

(2) 学習意欲の向上に対する効果について、グループ学習、及び、国家試験直前まで指導役の者が伴走し続ける (独学では分からない問題に対する「ベトナム語での用語解説」等) ことに一定の効果があること。

(3) 問題文の正確な理解における漢越語 (ベトナム語の中に豊富に含まれる中国語由来語) 利用の有効性が確認された。

(4) ベトナム人介護留学生の中にベトナムで看護学校を卒業した者が多く含まれていることに、これまで以上に留意して、そのことを活かした対策方法を検討する余地があること。なおこの示唆はベトナム人介護技能実習生に対する学習支援にも適用できる可能性がある。筆者の調査 (引用文献) では、近年留学生数を上回るペースで増加したベトナム人介護技能実習生の中にもベトナム看護学校既卒者は多く、また国家試験受験希望者が多い。

表1 アクションリサーチ(「母語による補講」と「フォローアップ」)の概要

実施時期	実施内容
2020年10月下旬～ 2021年1月下旬	2020年度の2年生を対象とした「母語を用いた補講」の実践(計16回)参加留学生のフィードバック及び共同研究者のコメントを踏まえ2021年度の実践内容を調整
2021年7月上旬	2021年度2年生を対象に「母語を用いた補講」の説明会開催(国家試験受験に向けての意識づけ)
2021年8月15日～ 12月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週日曜日午後8時から10時頃まで、オンライン形式にて「母語を用いた補講」の実施(計16回)</li> <li>・取り上げた過去問は「生活支援技術」(26問)、「認知症の理解」(10問)、「介護過程」(8問)、「こころとからだのしくみ」(12問)、「障害の理解」(6問)、「介護の基本」(10問)、「総合問題」(12問)、「社会の理解」(10問)</li> <li>・先輩や教員による講義「漢越語を利用した漢字学習」、「認知症の理解」、「こころとからだのしくみ」、「社会の理解」</li> <li>・宿題として『介護の言葉と漢字ワークブック ベトナム語版 毎日の漢字テスト』1日1ページを課す(1週間分をティーチングアシスタントに提出)</li> </ul>
2021年12月中旬～ 2022年1月下旬	「補講」終了後に継続を希望する声があり、希望者を対象に週1回2時間ほど母語による学習支援を実施(＝フォローアップ)
2021年12月6日～ 12月13日	参加者からの評価に関するアンケート調査の実施
2022年4月中旬	参加者2名を対象にインタビュー(読解力が高い者の漢越語利用能力の高さを確認)の実施
2022年6月中旬	参加者の中の国家試験合格者4名を対象にFGDs(日本語能力との関係、等について)の実施

表2 アンケート回答者とアンケート非回答者の比較

項目	アンケート 回答者 (N=7)	アンケート 非回答者 (N=8)
年齢(平均)	23.7	22.8
男女比	男2女5	男2女6
滞日年数(平均)	2年10カ 月	2年9か月
Z医療短大看護学科既卒者数	5	2
日本語学校在籍期間(平均)	2年2カ月	1年2か月
実施前の8月の模擬スコア(平均)	50.4	43.3
勉強会(10回中)参加回数(平均)	9.3	6.8
漢字宿題提出回数(平均)	9.6	6.1
12月7日(アンケート依頼直前)模擬スコア (平均)	71.4	51.1
国家試験点数(平均)	71.4	60.1

備考：自己採点に基づく点数

表3 自由記述の内容

<p>Q. オンライン勉強会全体（全16回）を通して、あなたが自分で変化・成長したと思うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の認知症や認知症の方々へのケアの仕方について理解でき、より明確になった。</li> <li>・模擬試験の得点が少し上がった。</li> <li>・勉強会はとても有益だと思います。これまでの勉強会でとても多くの知識について学ぶことができました。自分の知識が大きく変化したと感じています。現時点の私は国家資格に至る道により多くの自信を持っています。</li> <li>・学習へのモチベーションをもち、多くの有益な知識を補充する手助けとなりました。</li> <li>・先生方と参加者の指導で、多くの有益な知識を学ぶことができ、私がわからない問題は先生がよく理解できるようにして下さいました。そのお蔭で勉強と試験対策に高いモチベーションが得られました。</li> <li>・16回の勉強会を通して私は多くの知識、勉強方法を知ることができ、解答する時の時間配分について知り、新しい単語と漢字を沢山学びました。一番大きな変化は得点だと思います。初めて解答した時の得点は50点でした。16回のプログラム終了時の私の得点は77点で、22点も向上しました。</li> </ul>
<p>Q. オンライン勉強会への改善点など自由に書いてください</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（この記述のみ日本語で書かれていた。意味が通るように筆者が多少日本語に手を加えた）問題文と選択肢をベトナム語に訳す必要があるため、時間がかかり、解いた問題数が多くなる。</li> <li>・もっと勉強会の回数が多いほうがいい。</li> <li>・もしプログラムがさらにもう少し長期間だったら、私たちはもっと多くの知識を吸収することができると思います。</li> <li>・改善点は沢山ありませんが、私の個人的な視点では、自宅での宿題は実践的であるため、おそらく状況設定の文章あるいはよく試験に出る間違いやすい知識に関する文章を全員に訳させてみて、慣れさせることで、問題を読む時間を短くすることができます。というのも、私のように日本語が下手な者にとっては、推測はできますが、読解する時によく困難がある（あるいは誤解する）からです。文章を訳すと、みんなの訳し方やよく間違える点を知ることができます。クラスの中の一人ひとりの知識のレベルが異なっていて、また仕事、勉強、学校の試験があって、初めのころはとても難しかったですが、みんな頑張ったので、みんなの翻訳力が安定したら、知識を沢山増やすスピードを上げられました。あと、自宅での宿題はベトナムでの質問を追加して本で調べさせて理解させてもよいかと思います。たとえば、「尿失禁には何種類あり、分類：切迫性は溜尿機能に障害があり、強い尿意はあるが、トイレまで尿をこらえきれない。脳血管症、膀胱炎、前立腺肥大症、尿路感染症等に多く見られる」という風に。上記は私の個人的な考えなので実践的かどうかはよく分かりません。</li> </ul>

<引用文献>

比留間洋一、道上史絵、曾根允、静岡県内のベトナム人介護実習生の実態に関する調査レポート、2022（<http://shizuoka-wel.jp/foreign-report/>）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 ファン・ティ・ミー・ロアン, 道上史絵, 比留間洋一	4. 巻 28(1)
2. 論文標題 ベトナム人中上級日本語学習者はいかに漢字・漢字語彙を習得したか 漢越語の利用に関する予備的なインタビュー調査より -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語教育方法研究会誌	6. 最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 比留間洋一, 佐々木良造, ファン・ティ・ミー・ロアン, 天野ゆかり	4. 巻 28(1)
2. 論文標題 ベトナム人介護留学生の読解困難点に関するケーススタディ - 介護福祉士国家試験問題を対象として -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語教育方法研究会誌	6. 最初と最後の頁 62-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 比留間洋一, ファン ティ ミー ロアン, 道上史絵	4. 巻 28(3)
2. 論文標題 ベトナム人介護福祉士国家試験合格者の読解過程 - 漢越語非学習者を対象としたケーススタディ -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本語教育方法研究会誌	6. 最初と最後の頁 82-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 佐々木良造, 比留間洋一	4. 巻 4
2. 論文標題 ベトナム人介護留学生による介護福祉士国家試験問題の読解過程における漢越語利用のケーススタディ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 静岡大学国際連携推進機構紀要	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00028598	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 PHAN THI MY LOAN, 道上史絵, 比留間洋一	4. 巻 5
2. 論文標題 ベトナム人中上級日本語学習者の漢字習得における漢越語利用 - 介護福祉士国家試験対策の考案に向けた基礎研究 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 外国語教育のフロンティア (大阪大学大学院言語文化研究科)	6. 最初と最後の頁 55-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00028598	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤敦典, 岩井美佐紀, 比留間洋一	4. 巻 38
2. 論文標題 ベトナム・ハティン省における高齢者をめぐるケア・レジームの配置 村落地域の高齢者世帯と社会養護施設を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都産業大学論集. 社会科学系列	6. 最初と最後の頁 97-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sayuri Minoda, Junko Aono, Satomi Higuchi, Chieko Kitagawa, Yoichi Hiruma, Masatada Aoki, Kiyoko Kusakabe	4. 巻 26
2. 論文標題 Analysis of the Japanese National Nursing Examination completed for the first time by Vietnamese Economic Partnership Agreement Nurse candidates - A true/false comparison with Japanese examinees	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知県立大学看護学部紀要	6. 最初と最後の頁 83-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 比留間洋一, 天野ゆかり	4. 巻 22 (1)
2. 論文標題 EPA介護福祉士候補者のモチベーションの変化と国家試験の影響 ベトナム人1期生の事例 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 47-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野ゆかり	4. 巻 25
2. 論文標題 静岡県における外国人介護人材の受け入れと介護福祉士資格取得に向けた支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 第25回静岡健康・長寿学術フォーラム記録集（静岡健康・長寿学術フォーラム実行委員会）	6. 最初と最後の頁 71-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 比留間，洋一，ファミ ドウック ムック，天野ゆかり	4. 巻 22(1)
2. 論文標題 ベトナムの看護・介護人材の現状と課題：看護協会の立場から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 47-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 比留間洋一
2. 発表標題 日本ベトナム経済連携協定の概要・歴史とその背景
3. 学会等名 『外国人看護師』 - アジアの高齢化と看護師の越境移動に関する今後の展望（静岡県立大学国際関係学研究所30周年記念イベント）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 比留間洋一
2. 発表標題 日本のベトナム人介護士研究に関する現状と課題：EPAから留学生へ
3. 学会等名 東南アジア学会（2021年度オンライン例会）
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 ドアン・ヌー・ガー・ミー, グエン・ティ・ラン・フオン, 比留間洋一
2. 発表標題 東嶋・渡辺著『今日からできる高齢者の誤嚥性肺炎予防』ベトナム語版作成を通してみる日越の違い
3. 学会等名 長崎大学・レスパティインドネシア大学共催「海外から見た日本の介護～口腔嚥下ケアを中心に～」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 比留間洋一, 天野ゆかり
2. 発表標題 ベトナム人留学生の介護福祉士国家試験の解答困難点 - 母語を用いた調査の意義
3. 学会等名 第27回日本介護福祉教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 比留間洋一
2. 発表標題 The impact of the COVID-19 on the recruitment, training and work of Vietnamese Care Workers coming to Japan
3. 学会等名 2nd Researchers Roundtable of AHWIN-Related ERIA Studies: Recent Findings and a Discussion of the Impact of COVID-19 on the Cross Border Movement of Care Workers (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 比留間洋一
2. 発表標題 日本におけるベトナム人介護士受入れの展開とジレンマ
3. 学会等名 ERIA(AHWIN PROJECTS)「アジアからの看護師、介護士の国際労働移動とキャリア形成」研究会(主査:辻田祐子)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 天野ゆかり
2. 発表標題 静岡県における外国人介護人材の受け入れと介護福祉士資格取得に向けた支援
3. 学会等名 静岡健康・長寿学術フォーラム実行委員会主催 第25回静岡健康・長寿学術フォーラム 令和時代の健康・長寿（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 天野ゆかり
2. 発表標題 日本から見たタイの高齢者ケア
3. 学会等名 野毛坂グローバル主催「日本の高齢者ケア（タイ自治体職員向け）」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 天野ゆかり
2. 発表標題 日本の新型コロナ対策の新たな介護技術の提案
3. 学会等名 中国浙江省老年研究センター安福国際養老サロン（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 天野ゆかり，比留間洋一
2. 発表標題 EPA介護福祉士の国家試験合格率に関する分析ーベトナム人合格者の語りから
3. 学会等名 介護福祉教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 天野 ゆかり
2. 発表標題 アジアのKaigoと人材育成
3. 学会等名 国際シンポジウム「日本の介護・アジアのKaigo」主催：長崎大学、共催：東アジア・アセアン経済研究センター（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 比留間洋一
2. 発表標題 日本で働くベトナム人介護士の現状－EPA、介護留学
3. 学会等名 ベトナム介護セミナー第1弾「高齢者ケア・ベトナムからの人材定着に向けて」共催：AHPネットワークス、近畿社会福祉専門学校（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 平野 裕子、米野 みちよ（以上、編者）、大野俊、比留間洋一、アニョヌエボ、コラ、ナヴァロ、カトリーナ、ヌグラハ、スシアナ、坪田邦夫（以上、執筆者）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学	5. 総ページ数 272
3. 書名 外国人看護師	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	天野 ゆかり  (Amano Yukari)  (60469484)	静岡県立大学・経営情報学部・講師    (23803)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------